



弟企企第64号
平成19年 5月 2日

国土交通省道路局長 様

北海道川上郡弟子屈町長 徳 永 哲



道路整備の中期計画策定にあたっての意見について

貴職におかれましては、平素より北海道にとって最も重要な社会資本のひとつである国道の整備、維持に格別なるご尽力を賜わり厚くお礼申し上げます。

さて、平成19年4月2日付け国道企第114号でご依頼のありました標記につきまして、別紙のとおり提出いたしますのでよろしく願いいたします。

道路整備の中期計画策定にあたっての意見

北海道は全国の22%の広大な面積を有しており、首都圏・近畿圏などの公共交通機関が整備されている地域と違い、道路は最も重要な社会資本として、地域住民の生活や経済・社会活動と密接に関係している施設であります。

北海道のこのような状況下において、本町の位置する釧路圏は北海道の中でも高規格道路の整備が最も遅れている地域であり、一般国道と合わせた道路網の整備は「地域の自立と競争力の強化」、「安全・安心の確保」の観点からは是非とも推進していただきたい最重要課題であります。

このようなことから、本町の意見を以下に述べますので、その必要性をご理解いただき、道路整備の中期計画策定にあたり、特段のご配慮を賜われますようお願い申し上げます。

記

1. 生活

弟子屈町は拠点となる中核都市が広域分散している北海道の中であって、釧路市や網走市、北見市など近隣の中核都市までも70km以上離れており、自動車による移動が欠かせないことから、地域住民が安心して生活することができるよう次の点についてご配慮願いたい。

・医療に関わる道路整備について

弟子屈町の2次医療圏は約70km程離れている釧路市になる。本町の1年間の救急搬送550件のうち約3割は重症救急患者として釧路市まで転送されているが、幅員の狭い箇所があるなど、緊急車輛が一般車輛を追い越す時や大型車輛との交差など、一刻を争う状況の中、住民の命を握っている道路の整備は必要不可欠である。

また、町内で受診することができない産婦人科や耳鼻科等の診療科目については、JR等の公共交通機関が決して十分でない本町では、各中核都市まで自家用車で通院せざるを得ない状況であることから、高度医療施設への早急・安全なアクセスを可能とする道路整備は必要不可欠である。

・地域特性（積雪寒冷）に関わる道路整備について

弟子屈町は内陸に位置するため降雪量が多く、北側及び西側には峠が、南側、東側には平坦な牧草地帯が広がるため、吹雪や地吹雪で冬期間日常的に通行止めが発生する地域である。特に平成16年の1月と2月に発生した暴風雪の際は、本町周辺の幹線道路が全て通行止めとなる「陸

の孤島」状態が数日間続き、町内の集落間でも視程障害のためアクセスが寸断されるなど、住民生活に多大な支障を来した。

これら積雪寒冷地の地域特性に対応し、住民全体が安全で安心して生活ができる道路整備が必要不可欠である。

・防災に関わる道路整備について

本町を通過する、国道を含めた幹線道路は、周辺の火山である雌阿寒岳噴火時における、避難経路としての役割を担う道路であるため、本町を含めた周辺地域の避難等の迂回リダンダンシー確保の観点からも非常に重要な道路となっている。しかし、冬期の通行止め等が多発する状況であり、地震等の災害時の安全な迂回路の確保という観点から、高規格な道路等の災害に強い道路整備が必要不可欠である。

・生活全般に関わる道路整備について

本町では、生活に直結する就労の場や買い物など、町外への生活移動の需要が高く、その移動手段としては、公共交通機関が発達していないため、自動車に頼らざるを得ない状況である。よって、住民の生活を支えるための広域的な移動を自動車で行う必要がある本町としては、道路整備による高規格ネットワークの構築が必要不可欠である。

2. 経済

東北北海道には全国で28ヶ所ある国立公園のうち、3ヶ所（阿寒・知床・釧路湿原）の国立公園があり、その他、国定公園や北海道立公園に指定されている地域もあるなど、雄大な景観に多くの動植物が息づく豊かな自然環境に恵まれた地域である。

その中でも弟子屈町は阿寒国立公園の56%の面積を有し、摩周湖や硫黄山、屈斜路湖など数多くの景勝地と、川湯温泉に代表される豊富な温泉で毎年多くの観光客が訪れている。

また、本町は北網圏と釧路圏の結節点であると同時に十勝圏にも通ずる路線を有しており、物流の要衝ともなっているところであることから、地域の経済の振興を図るため、次の点についてご配慮いただきたい。

・観光振興に関わる道路整備について

本町は観光が基幹産業となっており、年間約100万人の観光入込数がある。この内、約4割が道内からの観光客であり、これらの方がリピーターとして2度、3度とお越しいただくことが入り込み数の底上げ、延いては観光振興に繋がるものと考えている。

そのため、ターゲットとなり得る方が多くいる道央圏からの誘客を推進するためにも、移動時間の短縮を図れる高規格道路の整備促進が必要

不可欠である。

また、この地域はシーニックバイウェイ北海道のルートにも指定されていることから、沿道景観に配慮した道路整備を推進していただきたい。

・物流に関わる道路整備について

本町は前述のとおり、地元の農産物等の輸送をはじめ、各圏域からの物流の点において重要なアクセスポイントとなっている。

このため、高規格ネットワークの構築がコストの削減、農林水産物等の品質維持につながり、このことが経済の振興に繋がるものと考えていることから、広域物流の効率化となる高規格道路の整備が必要不可欠である。

以上の観点から、本町としては、道路整備の中期的な計画の策定に関して、速やかに整備すべき道路事業として以下の事業を盛り込んでいただきたい。

- 道東縦貫道、北海道横断自動車道（本別～釧路）
 - ・ 医療に関する緊急搬送等に対応した高規格な道路ネットワークの構築
 - ・ 災害時迂回リダンダンシー確保のため、高規格な道路等の災害に強い道路の構築
 - ・ 観光振興に資する、景観に配慮した道路整備、高規格な道路ネットワークの構築等
 - ・ 周辺地域の物流拠点としての役割を担えるような高規格な道路ネットワークの構築
- 冬期地吹雪対策